

東日本ユニオンにいがた

http://www.geocities.jp/higashinihonunion_niigata/

JR東日本労働組合新潟地方本部

2018年8月1日発行

第34号 (通巻第98号)

発行者: 星山 圭 編集者: 教育・広報部

東日本ユニオンに 結集しよう!



組合員・家族の利益を守るため 東日本ユニオンへの結集を!

JR東日本労働組合第6回定期大会



中央本部の佐藤執行委員長は挨拶の中で、安全問題や組織拡大等の課題について述べ、第6回定期大会を実践のスタートにしようと呼びかけました。質疑では12名の代議員から発言がありました。新潟地本選出の代議員からは、保険メンテナンス体制の最適化の提案を受けて、労組の枠を超えて議

論し意見集約を図ってき実践と教訓、これからの職場からたまたかいを創り出して行くという決意が述べられました。各地本選出の代議員から、エルダー社員制度の誠意ある運用の実現に向けた取り組みやJR発足30年あらゆる労働条件・労働環境の総点検行動、効率化施策に対するたたかいなどが発言され、組織の拡大に向けて取り組みを創り出して行くという力強い発言が相次ぎました。労働組合に加入していない社員が過半数を占める中で、労働者の視点から会社の施策に対するチェック機能を果たし、組合員・家族の利益を守るために東日本ユニオンへの結集

乗務員勤務制度・賃金制度の改正に関する勉強会を開催

新潟地本は7月5日、運輸区関係の分会の業務担当者や代表者を中心に集まり、「乗務員勤務制度、賃金制度の改正」に関する勉強会を開催しました。7月3日に本部・本社間で賃金制度の改正の提案が行われたことを受けて、提案内容の組合員への周知と共有化を図り、今後の議論に繋げて行くために開催したものです。今改正で廃止の提案がされている先行手当や深夜額(A)・(B)などの条件



真夏のバーベキューで 組合員の懇親を深める

上中越支部は6月29日に、長岡市与板町の「中川清兵衛記念BQビル」にてバーベキュー大会を開催しました。当日は26名の組合員が参加し、おいしいお肉とビールをいただきながら大いに盛り上がりました。今回のレクリエーションを通じ、横のつながりを深めつつ、今後の運動の糧とすることが出来ました。(上中越支部投稿)

地本会計監査を実施

新潟地本は7月23日13時00分より、新潟地本事務局において、2017年度一般会計の会計監査を実施しました。対象の会計期間は2017年11月1日より2018年4月30日までです。監査の結果、会計規則に準じて処理されており、帳票類もよく整理されているとして、指摘事項は特にありませんでした。今後とも大切な組合費を厳正に管理・執行していきます。

JR東日本第1四半期決算 (単体)			
● 営業収益	5,187億円	(対前年	1.0%増)
● 営業利益	1,189億円	(対前年	1.1%減)
● 経常利益	1,167億円	(対前年	2.5%減)
● 四半期純利益	826億円	(対前年	4.3%減)
JR東日本第1四半期決算 (連結)			
● 営業収益	7,263億円	(対前年	2.0%増)
● 営業利益	1,386億円	(対前年	0.1%増)
● 経常利益	1,244億円	(対前年	2.1%減)
● 四半期純利益	781億円	(対前年	9.4%減)

この学習会の内容を基に各分会では、現在の乗務員行路に当ってはめた場合の改正後の支給額を試算し、疑問点や問題について議論を重ねています。手当の見直しによる支給額の増減だけにとらわれることなく、手当の根拠や制度のあり方などについて、職場から議論を創り出していきます。

JR東日本第1四半期決算発表 グループ総力で最高益実現

JR東日本は7月27日に、2018年度第1四半期決算を発表しました。単体決算では、営業収益、運輸収入が7期連続の増収となったうえ、第1四半期決算としては過去最高となりました。一方で部外委託関係の増など物件費の増加や、ポイント引当金繰入などによる特別損失の増加により各利益とも減益となり、増収減益となりました。連結決算も増収減益となりました。

団体交渉の日程決定

- 申7号
今冬期に発生した倒木と落雪に関する緊急申し入れ
- 申8号
信越本線444M
東光寺～帯織間にて雪を抱えて停車した事象に対する説明申し入れ

2018年8月6日(月)
10時00分より